

都道府県名

NPO法人ごうどスポーツクラブ

予算額

1,992,259 円

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	感謝する会 講話				
趣旨・目的	神戸町も3世代家族が減少し、核家族化が進み、コミュニケーション不足から社会性や思いやりの欠如などが見られ、また、地域の連携感も希薄になってきている。家庭教育学級へ体育活動指導員を派遣して、コミュニケーションの大切さを保護者へ啓発活動していく。また、コーディネーターや地域の方への「感謝する会」を通して、子どもたちの『人や地域にかかわる力』を高めて行きたい。				
内容	家庭教育学級への体育指導員派遣 コーディネーターや地域の方へ感謝の心を表す「感謝する会」				
対象者	スポーツ少年団保護者 児童	参加人数	65名 約1165名	実施回数	1回 4回
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習課との連携の中で、家庭教育学級に体育活動指導員を派遣し「コミュニケーション能力を高める」という内容で講演会を実施した。 日頃の取組の中で、コーディネーターは、授業の終わりに、技能面だけでなく、取り組み方・参加意欲・友達とのかかわり方について認め、励ましを与えるようにし、担任と共に「ありがとう」の心を届ける。見ていてくれる人・支えてくれている人がいる事を子どもたちに伝えていき、感謝する心を育てていった。 				
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きや運動への立ち向かい方について、関心を持って観ている子どもが増えてきた。 学校への来訪者や地域の見守りの人達に対して、声かけや挨拶がよくなるようになってきた 子ども同士が声を掛け合って、かかわりを強く持つようになってきた。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	4 校
---------	-----

コーディネーター総数	12 名
------------	------

◆効果を高めるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none">・ 本事業の趣旨やねらいとすることについては、事前に校長会、教頭会で理解を求め、さらに、町内の学校で組織している「学校連盟」の中の「健康教育部会」に働きかけ、事業の具体的な展開方法や学校がどんな人材を求めているかなどを把握した。健康教育部会には、各学校の体育主任が全て構成されている。・ コーディネーターの中で、小学校体育を指導した経験がある人がひとりもいなかった。事前の打ち合わせでは十分でないので、各学校に単元指導計画を準備してもらい、それをもとに打ち合わせをおこなうようになってから効果的に支援ができるようになってきた。・ 学校のニーズを把握して派遣事業が円滑に進むように、学年別の月別指導単元一覧表にコーディネーターの要請希望を記入して提出してもらった。・ 担任、管理職、コーディネーターにアンケート調査をして、この事業の効果や問題点などの把握をし、必要に応じて改善を行った。

◆成果と課題

〔成果〕

<ul style="list-style-type: none">・ 体育専門の教師が少ない上に、小学校ではほとんど担任は女性教員である。こうした中で、専門的な指導が可能になり、担任の大きな助けになっている。・ 実技を伴うことが多く、師範や演習をコーディネーターにしてもらえるので、指導がより具体的になった。・ 一人ひとりにきめ細かな指導ができ、子ども達の学習意欲も高まり体育好きな子どもが増えた。・ コーディネーターに加わってもらう事で、。体育授業に対する研修の必要性を感じ、積極的に取り組む教師が増えてきた。・ 「子どもが体育の授業を楽しみにしている。『教えてもらってできるようになったので嬉しい』』と保護者からの喜びの声が学校に届いている。
--

〔課題〕

<ul style="list-style-type: none">・ 学校からの申請される単元に偏りがあり、コーディネーターの指導可能種目とギャップがあって、調整が難しかった。・ 事前の打ち合わせの時間がとりにくい場合もあって、十分理解しないままに授業に入ってしまう場合があった。・ この事業は、学校側が主であってあくまでコーディネーターは補助的な役割であるのだが、学校の教師が体育専門でない場合、コーディネーターに全面的に頼り切ってしまうことがあった。
--

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

<ul style="list-style-type: none">・ 小学校の体育授業のコーディネーター派遣は、学校側にとっては願ってもないような事業であった。総合型地域スポーツクラブと学校教育との連携が契機にさらに深まってきた。・ 専門的な力を持った民間人が、コーディネーターとして子どものやる気を高める指導をしていただくことで、教員自身が体育指導の研修の必要性を感じたということもあった。・ この派遣事業を通して、若い指導者のスキルアップにつながったり、児童と触れ合うことで教える事の喜びを感じたり、学校教育への理解を深めたりすることができた。

〔課題〕

<ul style="list-style-type: none">・ トップアスリートと学校教育との連携はかなり密になってきたが、人材に限りがあって、まだまだ好循環が生まれるところまでは構築できなかった。・ 事業終了後の精算であるため、コーディネーターに負担を強いることになってしまう。
